

臨床試験にみんなが アクセスしやすい社会を創る会

2023年6月8日 厚生労働記者会

臨床試験情報に関する課題と解決の方向性

	課題		解決の方向性
臨床試験情報へのアクセス課題	<ul style="list-style-type: none">国民の臨床試験に関する情報が行き届いていない（啓発が十分ではない）医療者、研究者も臨床試験に関する情報がみつけにくい企業は規制により情報発信ができない結果として、患者が適切なタイミングで適切な臨床試験に参加する機会を失っている	➡	<ul style="list-style-type: none">臨床試験について医療者・研究者・国民への啓発、情報発信、教育（学習）を、多様な声を取り入れながらともにつくる臨床試験情報のマッチングサービスの仕組みを作る（プッシュ型の情報提供）
臨床試験情報の課題	<ul style="list-style-type: none">jRCTは検索するのにコツが必要専門的な表現が多く患者さんの理解困難jRCTに登録する研究者/企業にも難解	➡	<ul style="list-style-type: none">jRCTをあらゆるステークホルダーにとって使いやすいサイトに改修するよう厚労省に働きかける

「臨床試験にみんながアクセスしやすい社会を創る会」

発起人およびオブザーバー

- 共同発起人（8名）

共同発起人	
天野慎介	一般社団法人全国がん患者団体連合会
桜井なおみ	
眞島喜幸	
辻邦夫	一般社団法人 日本難病・疾病団体協議会
西村由希子	特定非営利活動法人ASrid
齊藤光江	順天堂大学医学部附属順天堂医院
中村健一	国立研究開発法人国立がん研究センター
若尾文彦	

オブザーバー：

野村由美子（厚生労働省）、湯川慶子/土井麻理子（国立保健医療科学院）、柴田大朗（国立がん研究センター）、森和彦（製薬協）

ミッション

患者/家族/医療者の臨床試験情報へのアクセス向上を目指した
提言や発信を行い、医療現場と政策に反映する

ビジョン

みんなで臨床試験情報を「見える化」し、
臨床試験に患者/家族/医療者/研究者がアクセスしやすい環境を創る

事業計画

■ 2023年度

- 様々な立場が集う対話の場の創出
 - わかりやすい臨床試験情報に関して厚労省等と定期的な意見交換を行う
 - 臨床試験情報プラットフォームのユーザビリティ向上に向け、患者・家族・医療関係者・研究者が意見交換するための場を創る
- 対話の場で集まった意見の発信（12月）
 - 様々な立場から出た意見をまとめ、発信する

■ ~2024年度

- 全ての人にとってユーザーフレンドリーなjRCTの構築
 - 医療関係者・研究者が臨床試験を登録しやすいサイトを構築する
 - 患者・家族・医療関係者・研究者が理解しやすい臨床試験のコンテンツを構築する
- 臨床試験情報の啓発・周知活動の実施
 - 患者・家族に対して、臨床試験情報へアクセスするための啓発活動を実施する
 - 医療関係者・研究者に対して、学会等の教育機会を活用して、臨床試験情報の理解促進並びに周知を図る

■ 2025年度

- 全ての人にとってユーザーフレンドリーな情報サイトの公開

臨床試験に患者/家族/医療者/研究者がアクセスしやすい環境

データベースとしてjRCT基盤を整えたあと、疾患領域別の二次利用可能な環境へ

